

# 10月2日(日)

せいしよ  
聖書

マルコ9・14～29

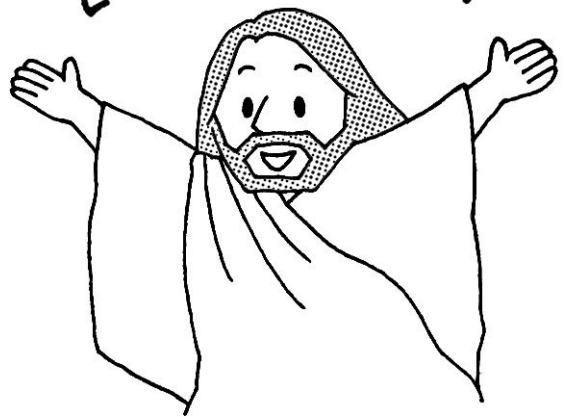
せいこく  
聖句

もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。 23節

「あれもできない、これもしできない」、「あの人にたのんでもダメ、この人をお願いしてもやっぱりダメ」というような時があると、「どうしよう?」という事になりますね。ここに出てくるお父さんがそうでした。かわいそうな息子のために、自分も何もしてやれないし、イエス様のお弟子さんたちにお願ひしてもダメだったのです。ところが、ただお一人(ひと)だけのお方(かた)とお出会(であ)いしました。全能の主(おんねんのうしゅ)——そう、何でもおできになるイエス様(イエスキリスト)でしたよ。

いの祈り  
てんのお父様、何でもおできになるイエス様を信じる者には、どんな事でもできることを知り、本当に感謝です。

# EVERYTHING!



せいしよ  
聖書

マルコ9・14～29

テーマ

ふしんこうとぞ  
不信仰を取り除く

あんしやうせいこく  
暗唱聖句

もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。

マルコ9・23

もく  
目標

ぜんのうしゅたいしんこうも  
全能の主に対する信仰を持って祈る者となる。

# 10月4日(火)

せいしよ  
聖書

マルコ9・19

せいこく  
聖句

その子をわたしの所に連れてきなさい。 19節

そのお父さんの言葉を聞かれたイエス様は、とても嘆いて言われました。「ああ、なんとという不信仰な時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいられるのか。いつまで、あなたがたに我慢ができればよいか。その子をわたしの所に連れてきなさい」と。イエス様は「不信仰」をお嫌いになるのですね。「信じてほしい」と願っておられるのです。「その子をわたしの所に連れてきなさい」。これが、いつでもどんな時でも一番にすべきことなのです。

いの祈り  
てんのお父様、わたしたちにはとても無理と思える時、そのことをお祈りしてイエス様の所にもっていきます。

# 10月3日(月)

せいしよ  
聖書

マルコ9・14～18

せいこく  
聖句

それでお弟子たちに、この霊を追い出してくださいのように願ひましたが、できませんでした。 18節

かわいそうなこの息子さんは、この時、何才(なんさい)だったのでしょうか? 小さい時から、物が言えなくなる霊にとりつかれると、どこであつても引き倒(たお)され、あわを吹き、歯(は)をくいしばって、からだをこわばらせてしまつていたのです。お父さんは、「あ、イエス様のお弟子さんたちだ、お願いです、この霊を追い出してください」と頼(たの)みました。でも、イエス様のお弟子さんたちだって、できなかったのです。お弟子さんたちは恥(は)ずかしかったかな?

いの祈り  
てんのお父様、いくらイエス様のお弟子だといつてもできないことがあるのがわかりました。心から同情します。

# 10月6日(木)

聖書

マルコ 9・23～24

聖句

信じます。不信仰なわたしを、お助けください。 24節

「できますれば」という父親の言葉を聞いて、イエス様は、力強く言われました。「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」と！その子の父親の心に、このイエス様のお言葉がビーンとひびきました。父親はすぐ（一）叫んで言ったのです。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」とね。「信じなければ、この子は助からない、どうぞわたしの不信仰を取り除いてください、信じます、お助けください」と心から叫んだのです。

いのちの祈り  
天のお父様、この子が助かるかどうかは父の信仰にかかっていました。わたしも他の人々のために信じていきます。

# 10月5日(水)

聖書

マルコ 9・20～22

聖句

しかしできますれば、わたしどもをあわれんでお助けください。 22節

人々がその子をイエス様のみもとに連れてくると、大変なことになります。その子の内にとりついていていた霊がイエス様だとわかると、急にその子をひきつけさせたのです。その子はバタッと倒れ、あわを吹きながらころげまわりました。「いつごろからこんなになったのだ？」とイエス様に尋ねられ、「幼い時からです。霊はこの子を、たびたび火の中、水の中に投げ入れて殺そうとしました。できますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」と父は答えました。

いのちの祈り  
天のお父様、こんなにもひどい状況だからと、おそろおそろお願いする父親の気持ちが、本当によくわかります。

# 10月8日(土)

聖書

マルコ 9・28～29

聖句

このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追い出すことはできない。 29節

初めから終わりまで、ずっとそばで見ているお弟子さんたちは、イエス様といっしょに家にはいつてから、こっそりとイエス様にお尋ねしました。「わたしたちは、どうしても霊を追い出せなかったのですか？」とね。イエス様の返事は、「このたぐいは、祈によらなければ、どうしても追い出すことはできない」ということでした。「お祈りの力がどんなに大切で、ききめがあるかということをもっともっと知らなければならぬんだ」と弟子たちは思ったことでしょう。

いのちの祈り  
天のお父様、あなたの全能の力、何でもおできになる力をあらわしていただけるような信仰と祈りを求めます。

# 10月7日(金)

聖書

マルコ 9・25～27

聖句

イエスが手を取って起されると、その子は立ち上がった。 27節

「けがれた霊よ、わたしが前に命じる。この子から出て行け！二度と、はいつて来るな！」と、イエス様はけがれた霊をしかって言われました。すると霊は叫び声をあげ、またその子を激しく引きつけさせて、ついに出て行ったのです。死人のようになったその子を見て、多くの人は死んだのだと言いましたが、なんと、イエス様がその子の手を取って起されると、その子は立ち上がったではありませんか！父親はきつとうれし涙を流したことでしよう。

いのちの祈り  
天のお父様、信じる者には、どんな事でもできるのだという事がよくわかり励まされます。信じつづけます。

# 10月9日(日)

せいしよ  
聖書

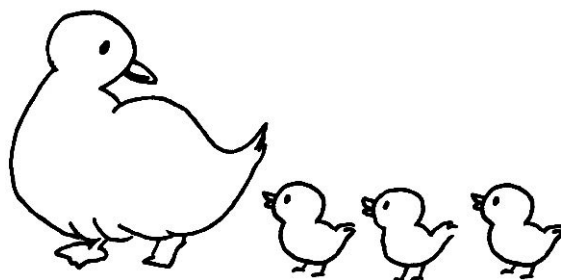
マルコ10・13～16

せいいく  
聖句

だれでも幼な子のように神の国を受け  
いれる者でなければ、そこにはいるこ  
とは決してできない。 15節

き  
きょうの聖書の箇所を読むと、子ども  
ちは、うれしくなつてしましますね！「わ  
ーい、ぼくたちが主役だー。お手本だー」  
つてね。イエス様は、子どもたちが大好き、  
心から喜んで受け入れてくださつて、その  
上、大人たちに、「あなたがたも幼子のよ  
うに、素直に神の国を受け入れるのですよ、  
そうでないとそこにはいることは決して  
きませんよ」と話されるのです。さてさて、  
わたしも幼子です。素直な信仰をもって信  
じていきます。

いの  
祈り  
てんのお父様、幼いことはとてもいいことです、  
今のうちに、心から素直な信仰をもって神の国を  
受けいれます。



せいしよ  
聖書

マルコ10・13～16

テ — マ

おさなご  
幼子のような信仰

あんしやうせい  
暗唱聖句

だれでも幼な子のように神の国を  
受けいれる者でなければ、そこ  
にはいることは決してできない。

マルコ10・15

もく  
目標

おさなご  
幼子のような素直な信仰で信じる  
者となる。

# 10月11日(火)

せいしよ  
聖書

マルコ10・13

せいいく  
聖句

ところが、弟子たちは彼らをたしなめ  
た。 13節

にこにこしながら母と子も、にこにこして  
いるイエス様のもとに集まりました。とこ  
ろが急に、空気がかわつてしまいました。何  
と、そのように喜んでイエス様に近づこうと  
する人々をやめさせようとするこわい顔のお  
じさんたちがいるではありませんか！よくそ  
のおじさんたちを見ると、おやおや、イエス  
様のお弟子さんたちではありませんか！「や  
めろ、さ、向こうに行つて」なんてね。「イエ  
ス様はお疲れなんだから、やかましいよ」と  
思ったのかな？

いの  
祈り  
てんのお父様、イエス様のお弟子さんたちだつ  
て、イエス様のお心が全然わかっていなかったの  
を知りました。

# 10月10日(月)

せいしよ  
聖書

マルコ10・13

せいいく  
聖句

イエスにさわっていただくために、人々  
が幼な子らをみもとに連れてきた。13節

ここの人々は、きつとお母さんたちなので  
しょう。昼間はお父さんは仕事で、子どもた  
ちを連れていたのは、お母さんたちでしょう。  
人々は、一番いいことをしようとしたのです。  
つまり、イエス様にさわっていただくために、  
子どもたちをイエス様のもとに連れてきた  
のでした。さわっていただくとは、きつとさ  
わつて、祝福のお祈りをしていただくこととし  
たのでした。イエス様のもとに連れていか  
れた子どもは、とっても幸せでした。あなた  
もそうでしたか？

いの  
祈り  
てんのお父様、わたしもイエス様のもとに連  
れてきてもらった、幸せな子どものひとりである  
ことを感謝します。

10月13日(木)

聖書

マルコ10・16

聖句

そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。 16節

ですから、イエス様のところへ行こうとする  
幼子たちを、誰も止めたりやめさせたりする  
ことはできないのです。だってイエス様が  
「来るままにしておきなさい。止めてはならな  
い」と言っておられるのですからね。大切な  
神の国にはいるには、幼子のように素直に受  
けいねなければなりません。そして、イエス  
様は幼子たちを抱いて、手をその上において  
祝福してくださいました。幼子たちも母たち  
も、またにこにこ！いいなアと思いますね。

いの祈り  
天のお父様、今もイエス様は、「来なさい」と  
招いてくださり、見えないみ手を頭において祝福  
してくださると信じます。

10月12日(水)

聖書

マルコ10・14～15

聖句

幼な子らをわたしの所に来るままにして  
おきなさい。止めてはならない。 14節

今も、ここのお弟子さんたちのようなおじ  
さんやおばさん、お兄さんやお姉さんがいる  
かな？昔は自分たちも幼子だったのね！そ  
んなお弟子さんたちを見て、イエス様は憤ら  
れたのです。つまり、怒られたのです！弟子  
たちに向かっておこつて言われました。「幼な  
子らをわたしの所に来るままにしておきなさ  
い。止めてはならない」とね。イエス様の両手  
は幼子に向かってオープン！イエス様のやさ  
しいハートは幼子に対してウェルカムです！

いの祈り  
天のお父様、わたしたち幼子をいつでも大き  
な心と両手を広げて受け入れてくださるイエス様  
が大好きです。

10月15日(土)

聖書

マタイ18・4～6

聖句

この幼な子のように自分を低くする者が、  
天国でいちばん偉いのである。 4節

そもそも、「偉くなりたい、偉いことはい  
ことだ」と思うその心をまずはいれかえて、  
幼子のようにならなければ、天国にはいるこ  
とさえできません！そして、小さい幼子は、  
偉そうにしたり、自分を人よりもよくできる  
からと高ぶってみたり、周りの人に命令して  
みたり、自分の思うようにいかなかったら怒  
ったりしないのです。つまり、いつも低い心、  
純真な思い、素直に人の言うことに耳を傾け  
ている幼子こそが、天国では一番偉いのです。

いの祈り  
天のお父様、天国でいちばん偉いのが幼子だ  
と聞いてとてもうれしいです。自分を低くする心  
でいられますように。

10月14日(金)

聖書

マタイ18・1～3

聖句

そのとき、弟子たちがイエスのもとに  
きて言った、「いったい、天国ではだれ  
がいちばん偉いのですか」。 1節

大きくなくていくにつれて、「偉くなり  
たい」とみんな思うみたいです。この  
学校で一番偉いのは誰？この会社で一番  
偉いのは誰？この町で一番偉いのは誰？  
なんていつも考えるようになるみたいです。  
だからお弟子さんたちもつい、「じゃ、天  
国で一番偉いのは誰のですか？」とイエ  
ス様にたずねました。するとそこにイエス  
様は幼子を呼んで、まん中に立たせて言わ  
れました。「心を入れかえて幼子のように  
と。わーい、幼子がまた主役だ！」

いの祈り  
天のお父様、イエス様が幼子のようにならな  
ければ、天国にはいることさえできないと言われ  
た言葉を大切にします。

# 10月16日(日)

せいしよ  
聖書

マルコ10・35～45

せいいく  
聖句

あなたがたの間でかしらになりたいと  
思う者は、すべての人の僕とならねば  
ならない。 44節

「神様のかたちに造られた人、つまりわ  
たしたち人間は、こういう風に生きるの  
すよ」ということを教えるために、イエス様  
は天より来てくださり、わたしたちと同じ  
人の形をとって地上で生きてくださいまし  
た。アダムの子によって汚されて生きるわ  
たしたちの目の前に、ハッとするような素  
敵な生き方を見せてくださいました。それ  
は、「仕える生き方」です。トップ(かしら、  
頭)になろうとする人は、すべての人のサ  
ーバント(僕、仕える人)になりなさいとね。

いの  
祈り  
天のお父様、あなたに造られたほんとうの人  
としての生き方を、イエス様からしっかりと教え  
ていただきます。



せいしよ  
聖書

マルコ10・35～45

てーま

仕える生き方

あんしよせい  
暗唱聖句

あなたがたの間でかしらになりたい  
と思う者は、すべての人の僕と  
ならねばならない。マルコ10・44

もく  
目標

仕える生き方を身につける。

# 10月18日(火)

せいしよ  
聖書

マルコ10・38～40

せいいく  
聖句

あなたがたは自分が何を求めているの  
か、わかっていない。 38節

イエス様は一瞬、このふたりの申し出、願  
いを聞いて、あきれたかもしれないね。  
「わたしの右と左にすわるといことがどう  
いうことか、わかっていないと思いますよ」  
とおっしゃいました。イエス様が栄光をお受  
けになるためには、その前にどうしても飲ま  
なければならぬ杯があるということです。  
つまり、十字架のお苦しみを味わうというこ  
とでした。「あなたがたもその杯を飲めるか」  
と問われて、「はい」とふたりはお答えしたの  
でしたが…。

いの  
祈り  
天のお父様、イエス様の右と左にすわらせる  
ことのできるの、あなたの決めることなのだと  
教えられました。

# 10月17日(月)

せいしよ  
聖書

マルコ10・35～37

せいいく  
聖句

栄光をお受けになるとき、ひとりをあ  
なたの右に、ひとりを左にすわるよう  
にしてください。 37節

仲良し兄弟、ゼベダイの子ヤコブとヨハ  
ネが、何やらふたりでひそひそ相談して、  
イエス様の所に来てお願いしました。「ひ  
とりではちょっとね」と思うことも、ふた  
りでしたら「よし」とできるのですね。  
「先生、わたしたちのお願いを何でもかな  
えてください」、「何をしてほしいのか?」  
「あなたが御国で栄光をお受けになるとき、  
わたしたちをひとりあなたはあなたの右に、ひと  
りを左にすわらせてください」。やっぱり  
このふたりも偉くなりたかったのですね。

いの  
祈り  
天のお父様、やっぱり人間の心の中には、ど  
こまでも他の人よりは偉くなりたいと思う心があ  
るのがわかります。

# 10月20日(木)

聖書

マルコ10・42

聖句

異邦人の支配者と見られている人々は、  
その民を治め、また偉い人たちは、その  
民の上に権力をふるっている。 42節

そのように興奮している12人の弟子さ  
んたちを呼び寄せて、イエス様は大切なこ  
とをお話してくださいました。まずは、「神  
様のことを知らない支配者たちや、この世  
で偉い人たちのことを「ごらんない」と。  
「彼らは、民を治めます。さらには、その  
民の上に権力をふるっているでしょう。本  
当に心から民のことを思い、愛し、考えて  
そのようにしているとは見えませんね」と  
イエス様に言われた時、12人の弟子たちは、  
心の中で恥ずかしかったかもですね。

いの  
祈り

天のお父様、今の社会も、イエス様の時と少  
しも変わらず同じだと思います。とても残念に思  
われることです。

# 10月19日(水)

聖書

マルコ10・41

聖句

十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨ  
ハネとのことで憤慨し出した。 41節

イエス様のお弟子さんは何人いましたか？  
そう、全部で12人でした。ですから、ヤコ  
ブとヨハネがふたりで相談して、そんな願  
いごとをイエス様に申し出たということ。他  
の10人のお弟子さんたちが聞いた時、10人  
の10人ともおこり出してしまったのです。「何だ！  
自分たちふたりだけでそんなお願いをしたり  
して！」「そうだ、そうだ、僕たちもいるんだ  
ってことを、忘れてしまってるのかい？」な  
んて、口々に言い、赤い顔している弟子たち  
でした。

いの  
祈り

天のお父様、ヤコブとヨハネだけでなく、他  
の10人の弟子たちも、やっぱり同じような心だっ  
たのが見え見えます。

# 10月22日(土)

聖書

マルコ10・45

聖句

人の子がきたのも、仕えられるため  
ではなく、仕えるためであり、また多く  
の人のあがないとして、自分の命を  
与えるためである。 45節

このみ言葉は、「しもべなるキリスト」  
を描くマルコによる福音書の中心聖句  
です。「人の子」とはイエス様が「自分  
のことをさして言うておられるのです。  
普通、人は仕えるより、仕えられること  
と与えるより、得ることがうれしいと思  
います。けれども神様の国では全く逆です。  
イエス様は、仕えられるためではなく、仕  
えるために来てくださり、僕として生き  
ぬかれました。

いの  
祈り

天のお父様、あなたの御国を望みつつ生きる  
わたしたちの生き方を、イエス様がハッキリ教え  
生きてくださいました。感謝です。

# 10月21日(金)

聖書

マルコ10・43～44

聖句

しかし、あなたがたの間では、そうで  
あってはならない。 43節

神様を知らない、信じていない世の中の人  
々の間では、ちよつとでも他の人より偉くな  
ろうとあがき、時には、他の人を蹴落として  
でも（！）人より偉くなろうとする、恐ろし  
い世界です。「でもイエス様の御国の教えに生  
きるあなたがたの間では、そうであってはな  
らないですよ」と言われます。「偉くなりた  
い人は仕える人になりなさい、かしらになり  
たい人は、すべての人の僕となるのですよ」  
と。その生き方は、何と平安な、心がすつと  
落ち着くものでしょう。

いの  
祈り

天のお父様、イエス様の教えや生き方は、こ  
の世のものとは全くちがって、何という安らぐも  
のかと感謝いたします。

# 10月23日(日)

聖書

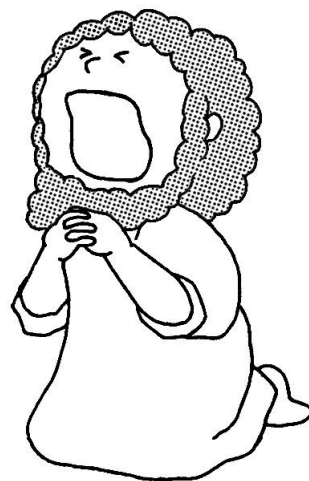
マルコ10・46～52

聖句

行け、あなたの信仰があなたを救った。  
52節

何でもすぐアキラメやすい子と、絶対にアキラメないで、しつこく求め続ける子と、あなたはどちらのタイプかな？ 性格と共に、それが「信仰」となると、しつこく求めるタイプは、本当に素晴らしい答えが与えられますよ！ きょう学ぶことはそのことです。バルテマイさんが、叫び求めて、求めて、そして、その信仰をイエス様はとっても喜ばれて、バルテマイが、「先生、見えるようになることです」と求めた、そのとおりに、彼の眼がみごとに開かれたのですから！

祈り 天のお父様、信仰をもって、祈り求め続けたバルテマイが視力を与えられたように、わたしも切に祈り求めています。



聖書

マルコ10・46～52

テーマ

切なる信仰

暗唱聖句

行け、あなたの信仰があなたを救った。  
マルコ10・52

目標

切なる信仰をもって祈り求める者となる。

# 10月25日(火)

聖書

マルコ10・48

聖句

彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」。  
48節

今まで静かにしていたバルテマイがいきなり大声で、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください！」と叫び出したものですから、まわりにいた多くの人々は、「ウワ、一体何だ？」「うるさい！叫ぶのをやめなさいか」「おい！やめろと言ったらやめるんだ」などと、バルテマイをしかって、やめさせようとした。しかし、それでやめるようなバルテマイではありません。どうしてもイエス様に聞いてほしいので、ますます激しく叫びました。

祈り 天のお父様、いつでもイエス様を求めようとするとじやまが入ります。でもバルテマイのように求め続けます。

# 10月24日(月)

聖書

マルコ10・46～47

聖句

ナザレのイエスだと聞いて、彼は「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんでください」と叫び出した。  
47節

「バルテマイという盲人のこじき」とあります。目が見えないので、お仕事もできず、物乞いをしていた人でした。本当にお気の毒で、心暗くなりますね。そこに、突然、彼の耳にグッド・ニュースがとびこんできました。目の見えない人の耳はとってもよく聞こえるのですね。『ナザレのイエス』だと聞いて、彼は急に大声で叫び出したのです。「信仰は聞くことによる」（ローマ10・17）とあるとおり！彼の心に信仰がわいて、突如叫び出しました。

祈り 天のお父様、「イエス様」と言うだけで、わたしたちの心に信仰がわいてきます。この日もイエス様と共に歩みます。

# 10月27日(木)

聖書

マルコ10・50

聖句

そこで彼は上着を脱ぎ捨て、踊りあがってイエスのもとにきた。 50節

バルテマイの叫びに、まずは第一段階として、イエス様が答えてくださったのでした。「おまえを呼んでおられる」と聞いて、バルテマイは、大喜びで、まわりつく上着を脱ぎ捨てました。次に踊りあがったのでした。跳びあがったということです。イエス様からの歓迎と招きのお言葉は、バルテマイを本当に興奮させてしまいましたね。あなたも、あまりにうれしくて、思わず、跳び上がって、踊ったり、はねたりしたことがあるかもしれませんね。

いのちの祈り 天のお父様、バルテマイが喜びの絶頂で、急いでイエス様のもとに行った様子がまるで手に取るようにわかります。

# 10月26日(水)

聖書

マルコ10・49

聖句

イエスは立ちどまって、「彼を呼べ」と命じられた。 49節

イエス様は、そんなバルテマイと、まわりの人々の様子を、ちゃんとしらんになって、すぐ立ちどまられました。そして、「彼を呼べ」と命じられたのでした。そこで、人々はバルテマイを呼んで言いました。「喜べ、立て、おまえを呼んでおられる」と。そんなにも叫び立てていたバルテマイの様子に、人々もきつと心動かされていったのでしよう。ああ、イエス様と呼んでくださったって、きつとバルテマイも喜びにあふれるにちがいないと思っただけです。

いのちの祈り 天のお父様、どこまでも祈り求めつづけるならば、その求めに耳を傾けていただけることを知り、感謝します。

# 10月29日(土)

聖書

マルコ10・52

聖句

すると彼は、たちまち見えるようになり、イエスに従って行った。 52節

イエス様はそのバルテマイに言われました。「行け、あなたの信仰があなたを救った」と。「わたしが見えるようにしてあげよう」でも、「わたしがすっかりいやしてあげよう」でもありませんでした。『あなたの信仰があなたを救った』と言ってくださいました。イエス様をお喜ばせるものは「信仰」なのです。イエス様はわたしたちの「信仰」とおりにしてくださるのです。バルテマイはすぐ（一）見えるようになって、イエス様に従って行きました。

いのちの祈り 天のお父様、あなたを信じる信仰をどんなにか喜び尊んで、信仰にこたえてみわざをなしてくださると知り、感謝します。

# 10月28日(金)

聖書

マルコ10・51

聖句

イエスは彼にむかって言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。 51節

ドキドキ、ワクワク、バルテマイは全身耳のようになって、イエス様が何と言われるか、聞いていました。イエス様は、バルテマイにむかって言われたのです。「わたしに何をしてほしいのか」と。バルテマイは、「それ!」とばかりにハッキリと、「先生、見えるようになることです」と言いました。何という瞬間だったことでしょう! バルテマイは、何の遠慮や、不信仰のカゲもなく、「きつとしてくださる」とイエス様を信じてお答えしたのでした。

いのちの祈り 天のお父様、わたしもバルテマイのようにハッキリと、あなたにして欲しいことをお祈りしていくことにします。



# 10月30日(日)

聖書

ヨハネ 8・1～12

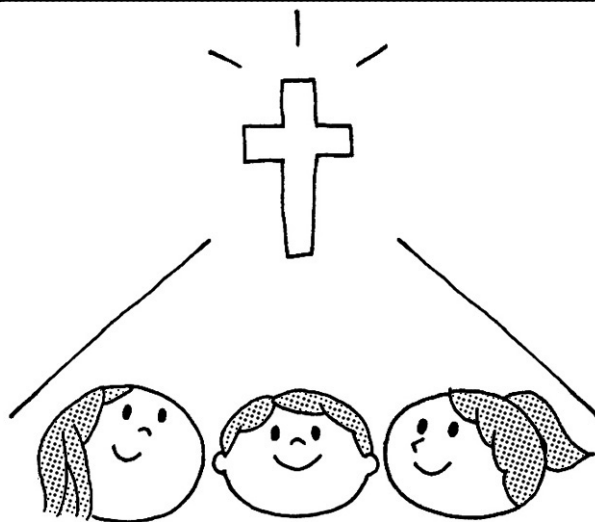
聖句

わたしは世の光である。

12節

神様が天と地のすべてを造られた時の最初のお言葉は、「光あれ」でした。そして「光」ができました！新約聖書の時代になって、神様は、まことの光である「世の光キリスト」をわたしたちのもとに贈りものとしておつかわしてくださいました。罪の暗やみの中にあるこの世を照らす光がイエス様です。きょうの聖書に出てくる女の人も罪のやみの生活の中から、明るい、清い光の中へと、世の光なるイエス様によって、導き出されたのでした。

**いのちの祈り** 天のお父様、世の光なるイエス様をありがとうございます。イエス様を信じて光の子とされ、従って生きたいです。



聖書

ヨハネ 8・1～12

テーマ

世の光キリスト

暗唱聖句

わたしは世の光である。

ヨハネ 8・12

目標

世の光キリストによる救いを頂き、キリストに従って生きる。

# 11月1日(火)

聖書

ヨハネ 8・6

聖句

彼らがそう言ったのは、イエスをためして、訴える口実を得るためであつた。

6節

律法学者たちやパリサイ人たちは、もちろん女の人を「何とかしないと」思っていたでしょうが、それよりも、「イエス様をためしてやるう、そして、何か律法とはちがったことを言ったり、やったりしたら、訴えてやるのだ」と心に思っていたのでした。イエス様は、彼らのわなにひっかかるでしょう？ イエス様は、すぐには返事をされません。身をかがめて、指で地面に何か書いておられました。一体何を書いておられたのかは、人にはわかりません。

**いのちの祈り** 天のお父様、イエス様を訴えようとする人々の中で、光なるイエス様がなさることにますます興味を覚えます。

# 10月31日(月)

聖書

ヨハネ 8・1～5

聖句

モーセは律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたは どう思いますか。

5節

新鮮な空気の中で、朝早くイエス様はオリブ山で祈られ、まだ朝も早い頃、エルサレムの宮にはいって、集まってきた人々を教えておられました。すると、その空気を破るように、ワイワイガガヤ、ザワザワと律法学者たちやパリサイ人たちが、罪を犯していたのをつかまえられた女の人をひっぱってきて中に立たせたのです。「イエス様あなたは どう思いますか？ 律法の中では、モーセはこういう女を打ち殺せと命令しています」とつめよりました。

**いのちの祈り** 天のお父様、何と緊張した場面でしょうか。世の光なるイエス様がどのようにされるのかとも知りたいです。

# 11月3日(木)

聖書

ヨハネ 8・9

聖句

ついに、イエスだけになり、女は中に  
いたまま残された。 9 節

もし、そこにあなたもいたら!? ここに書いてあるように、「年寄から始めて、ひとりびとり出て行き」とあるように、きつと、去っていったでしょうね。誰一人、罪のない人はいなかったし、今でもいないのです。ただひとり、イエス様だけはそこにおられましたね。なぜなら、イエス様は、一度も罪を犯したことがないお方だったからです。そして、女は罪を犯しましたが、光なるイエス様のもとにじつとどまっていました。これが大切なのです。

いのちの祈り  
天のお父様、罪を犯した女をつかまえてきた人たちもみんな罪を犯した人々であることがよくわかりました。

# 11月2日(水)

聖書

ヨハネ 8・7～8

聖句

あなたがたの中で罪のない者が、まず  
この女に石を投げつけるがよい。 7 節

「先生、どうなんですか」、「いつまで黙っておられるのですか」、「モーセの律法に従うのですか。どうするのですか」と彼らは問いつづけます。「従って殺せ」と言えば、「あなたの愛の教えは?」と言われるだろうし、「ゆるせ」と言えば、「律法は?」と言われるでしょう。イエス様は立ち上がって、「罪のない者が、まず」とおっしゃるではありませんか! 思いもしなかったイエス様のお言葉でした。そしてまた何か、地面に物を書きつづけられました。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様の返事は、まさに、稲光りのようなひらめきをもって、イエス様の口からとび出しました。

# 11月5日(土)

聖書

ヨハネ 1・1～12

聖句

すべての人を照すまことの光があって、  
世にきた。 9 節

「光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった(5)」というみ言葉の力強さ! 学んできた出来事を通してよくわかりましたね。ここには、永遠の昔から、神様と共にいられたイエス様が、クリスマスの日に、「すべての人を照すまことの光」として、神様からわたしたちの住むこの世界につかわされてこられたことが記されています。今月の27日からクリスマスに備えるアドベントに入ります。光なるイエス様を信じて救われ、従おう。

いのちの祈り  
天のお父様、罪を示して、ゆるしてくださって、光の子としてくださり、イエス様に従って生きられることを感謝します。

# 11月4日(金)

聖書

ヨハネ 8・10～12

聖句

わたしもあなたを罰しない。お帰りな  
さい。今後はもう罪を犯さないように。 11 節

イエス様は、やさしく女の人に言われました。「女よ、みんなはどこにいるのか。あなたを罰する者はなかったのか」。女の人は信じられないような出来事の中で、「主よ、だれもごさいません」と答えました。すると、またまた信じられないようなイエス様のお言葉です。「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」と! 完全にゆるされた女の人の心にイエス様のみ不思議がしみ込んだでしょう。「わたしは世の光である」。

いのちの祈り  
天のお父様、世の光であるイエス様を心から信じて、従って、いつも光の中を歩きつづける子どもとしてください。

# 11月6日(日)

聖書

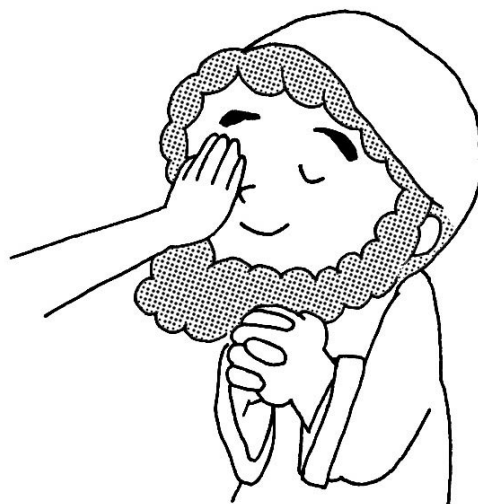
ヨハネ 9・1～11

聖句

ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。 3節

目の見えない人とお会いしたことがありませんか？「なんて悲しいの」と思うでしょう。しかもここに登場する人は、生まれつき見えないうし、考えてしまいうし、この弟子たちのように言ってしまうし。「前世のたたりだ」なんて言う人もいます。人はそう考えますが、しかし、イエス様は全然違います。「神のみわざが現れるため」と言われて、見えるようにしてくださいました！

いのちの祈り 天のお父様、イエス様とのお出会いは、何とわたしたちひとりびとりの人生を輝かしく変えてくださるものでしょう！



聖書

ヨハネ 9・1～11

テーマ

神のみわざが現れるため

暗唱聖句

ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。 ヨハネ 9・3

目標

神のご計画の最善を信じ、神のみわざが現れる生涯を生きる。

# 11月8日(火)

聖書

ヨハネ 9・3～5

聖句

ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。 3節

「ただ一つの目的のために、すべてがあるのだよ」とイエス様は言われます。「ただこのためだけにあるのだよと、おっしゃるのです。それは、「神のみわざが、彼の上に現れるためである」と。そう、「ただ」このことのためだね。味わい深いね。神様のみわざを今、昼の間に、できる時にしなければならぬのです。夜が来ると、もうだれも何もできなくなってしまう。イエス様は、こども「わたしは、この世にいる間は、世の光である」と言われます。

いのちの祈り 天のお父様、人の目にはマイナスとしか思えないことも、ただ神のみわざが現れるためと考えると希望です！

# 11月7日(月)

聖書

ヨハネ 9・1～2

聖句

先生、この人が生れつき盲人なのは、それが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか。 2節

イエス様のお弟子さんたちでさえ、目が見えないのは、本人が両親が何か罪を犯して、その罰としてそうなってしまったのかと考え、口にさえ出してしまいました。今でもいろいろな障害をもつ人に対して、こんなまちがった考えの人があります。人のマイナスを、ますます不幸な考え方でマイナス度を加えてしまいます。罪深い人間は、そのようにしか考えられないのでしょうか。でもイエス様のお心は、そういう人の思いとは全然ちがっているのです。

いのちの祈り 天のお父様、ついわたしたちもマイナスとしか見えず、神様のお心やご計画を忘れてしまっすみません。

# 11月10日(木)

聖書

ヨハネ 9・8～12

聖句

しかし、本人は「わたしがそれだ」と言った。 9節

何しろ、今まで何も見えなかった人が急にすべてが見えるようになったのですから、天にも昇る気持ちだったことでしょう。ところが大きな喜びの生れる所には、またその人を引きずりおろすような人たちも寄って来るのです。「この人は、すわってこじきをしていた者ではないか」、「その人だ」、「いや、ただあの人に似ているだけだ」などなど言うので、ついに彼は、「わたしがそれだ」と言ったのです。「どうしてあいた?」、「その人はどこに?」、質問攻めです。

いのちの祈り 天のお父様、目をあけてもらった人に、「おめでとう!」とか「よかったね!」とだれも言わないのはさびしいことでした。

# 11月9日(水)

聖書

ヨハネ 9・6～7

聖句

シロアム(つかわされた者、の意)の池 7節  
に行って洗いなさい。

どろだんごを作って、ままごとこつことかしたことがあるでしょう?でもその時は、水道の水を使ったでしょうね。ところがここでイエス様は、ペツってご自分のつばを上にはいて、そのつばでもってどろだんごを作られたのです!そしてそのどろを目の見えな人の目にぬって、「シロアムの池に行つて洗いなさい」と言われました。その人は言われたとおり、目の上にぬられたジャリジャリのどろをシロアムの池で洗うと、みごとに『開眼!』

いのちの祈り 天のお父様、その人の目が見えるようになったその瞬間の、言葉であらわせないような感動が伝わってきます。

# 11月12日(土)

聖書

ヨハネ 9・24～38

聖句

神は罪人の言うことはお聞きいれにありませんが、神を敬い、そのみこころを行う人の言うことは、聞きいれて下さいます。 31節

両親から、「あれはもうおとなですから、自分のことは自分で話せるでしょう」と言われて、パリサイ人たちは、またもう一度、目をあけてもらった人に聞いたでしす。彼はどんなに言うても信じようとしないパリサイ人たちに、「目をあけてくださった方は神から来た人としか考えられない」と言うので、彼らはその人を交わりから追い出したのです。しかし、イエス様は彼と会ってくださり、信仰に導かれました。

いのちの祈り 天のお父様、まことの信仰をもって生きる道はせまくて細いです。でもイエス様だけはいつも一緒にいてくださり、それがすべてです!

# 11月11日(金)

聖書

ヨハネ 9・13～23

聖句

ユダヤ人たちは、彼がもと盲人であったが見えるようになったことを、まだ信じなかった。 18節

質問攻めだけでは終わりません。人々はこの人をパリサイ人たちのところに行つたのです。イエス様が彼の目をあけてあげたのは、何の仕事もしてはならない安息日のことでした。ですからパリサイ人たちは、「その人は神から来た人ではない。安息日を守っていないのだから」と言います。「罪のある人が、どうしてそのようなしを行うことができようか」と、彼らの間に紛争がおこりました! 両親は逃げ腰です。不信仰はなんてやっかいなのでしょう。

いのちの祈り 天のお父様、本当に幼子のような素直な信仰を、あなたが心からお喜びになることがここでもよくわかります。

# 11月13日(日)

聖書

ヨハネ10・1～15

聖句

わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。 11節

本物の羊を見たことありますか？ 羊は目も弱いし、すべてに弱い動物です。羊飼いがいなければ、すぐにも迷い込んで死ぬか、恐ろしい動物におそわれて死んでしまいます。わたしたち人間も羊のように弱いですね。わたしたちのための羊飼いはイエス様です。よい羊飼いは、羊を守るためには命さえも投げ出すのです。イエス様は、わたしたちが罪を犯し続けて永遠に滅びてしまわないために、身代わりに十字架で死ぬほど愛してください。羊飼いです。

いのちの祈り 天のお父様、罪深く、迷いやすい羊のようなわたしのために命さえ捨ててくださった羊飼いいエス様を感謝します。



聖書

ヨハネ10・1～15

テーマ

羊飼いきリスト

暗唱聖句

わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。

ヨハネ10・11

目標

私たちのために命を捨ててくださった羊飼いきリストを信じる。

# 11月15日(火)

聖書

ヨハネ10・4～6

聖句

自分の羊をみな出してしまうと、彼は羊の先頭に立って行く。 4節

「さあ、広い野原にいつてらっしゃーい！」って、羊を出してしまつて、羊飼いのやさんは家でゆっくりするのではありません。サーツと羊たちの先頭に行つて、「ついて来るんだよ」と導いてくださるのです。羊たちは、目が弱いし、迷いやすいのですから。わたしたちのためにもイエス様は同じようにしてください。わたしたちにはこの一日、一体どんなことがあるのかわかりません。でもイエス様が、ちゃんと前に行ってくださいるので大丈夫！

いのちの祈り 天のお父様、一日の始まりに、きょうもイエス様がわたしの先頭に立って行ってくださいと知るのは心強いです。

# 11月14日(月)

聖書

ヨハネ10・1～3

聖句

そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。 3節

今週は、イエス様がどんなに良い羊飼いか、み言葉から見ていきましょう。囲いから外に出られるのは、羊たちにとつてうれしいことだったでしょう。羊飼いは自分の羊の名をよんで連れ出したのです。『メー太！メー吉！メー夫！メー助！メー子！』（わあどれもメーだ）一体どんな名前がつけられていたのでしょうか？ わたしたちも自分の名前が呼ばれることつて、何だかとてもうれしいことですね。イエス様はきょうも名を呼んでいてくださいます。

いのちの祈り 天のお父様、ひとりひとりの名を知つて、きょうも呼んでくださつて、一日の歩みに連れ出してください感謝です。

# 11月17日(木)

聖書

ヨハネ10・10～11

聖句

わたしがきたのは、羊に命を得させ、  
豊かに得させるためである。 10節

コロコロころがれるほど、マルマル太った羊を想像してしまいますか？ テーブルの上にパン・キン・スープにサラダに生ハム、ポテトにステーキに焼きたてパン、デザートはアイスクリームつきアップルパイ、なんてリッチー！ と思いますね。 豊かな命はこれらのものを食べて育てられるだけではありません。 何より、清い心と、何にも乱されない心の平安と、まわりの人への優しい思いやりが満ちた命でしょうね。 イエス様だけが与えてくださる命です。

いのちの祈り

天のお父様、イエス様を信じる時与えられる清い命、豊かな命を心よりありがとうございます。大切にします。

# 11月16日(水)

聖書

ヨハネ10・7～9

聖句

わたしは門である。わたしをとおって  
はいる者は救われ、また出入りし、牧草  
にありつくであろう。 9節

ここでは、イエス様が「わたしは門である」と言われます。その門は、救いの門ですね。わたしたちを、滅びて行くこの世から救い出し、犯しつづけてきた罪から救い出すことのできるのは、イエス様だけです。イエス様という救いの門をくぐって入ると、全く罪の力から救われ、守られていくのです。イエス様という門をくぐって、出たり入ったりして、わたしたちの成長のために必要なものが豊かに与えられます。 牧草、つまりみ言葉を第一に与え、そしてすべてを与えられます。

いのちの祈り

天のお父様、救いの門であるイエス様を感謝します。罪を悔い改めて、救いの門に入って豊かな人生にしてください。

# 11月19日(土)

聖書

詩篇23・1～6

聖句

主はわたしの牧者であって、わたしに  
は乏しいことがない。 1節

羊を飼っていた少年ダビデが、大きくなってつくった羊飼いの詩です。ダビデは、自分たちはちようど羊のようだな、神様は、ぼくの羊飼いだと、感謝にあふれてつくりました。豊かに養い、育ててくださる羊飼いの、たとい恐ろしい死の陰の谷のような中を行く時も、羊飼いな神様が共にいてくださるのでこわくありません。 毎日が勝利です。 神様の恵みと愛とがずっとわたしを追いかけてきます。 わたしは一生、この羊飼いな神様と共に過しますと！

いのちの祈り

天のお父様、この豊かな羊飼いの詩を、暗唱できたら本当に素晴らしいです。実行してみたいと思います。

# 11月18日(金)

聖書

ヨハネ10・12～15

聖句

わたしはよい羊飼であって、わたしの  
羊を知り、わたしの羊はまた、わたし  
を知っている。 14節

「わたしのこと、もっとよく知ってほしいな」、「ぼくのこともっとよくわかってよ」という気持ちになることがあるでしょう？ お家の人やお友だちだって、いつも一緒にいるのに、なかなかわかってもらえないなんて。 でも、よい羊飼イエス様は、わたしたち羊のことをとってもよく知って、わかっていてくださるのです。 詩篇139篇を読むとオドロキますよ！ うわー、何もかも知られてるんだーって。 では、あなたは羊飼いなイエス様をよく知っていますか？

いのちの祈り

天のお父様、わたしのことを一番よく知っていてくださるイエス様をくださって、本当に感謝でいっぱいです。

# 11月20日(日)

聖書

ヨハネ11・17～44

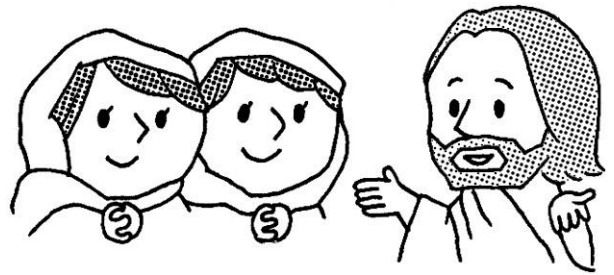
聖句

もし信じるなら神の栄光を見るであろう  
と、あなたに言ったではないか。40節

今週わたしたちは、「信仰のスゴミ」を見  
ます。実に、信じる時、スゴスギル事が起こ  
るのです。イエス様が言われることは、ただ  
信じてまちがいがありません。そして、絶対  
に従うならスゴイことを見るのです。神の栄  
光を見るのです！ラザロは死んで、墓に葬ら  
れて四日もたっていました。ほら穴を掘って  
作られた墓地の中で四日ですから、きつとマ  
ルタが言うように臭くなっていたでしょう。  
でも「石を取りのけなさい」との言葉に従い、  
栄光！

いのちの祈り

天のお父様、人間の常識なんかを吹き飛ばし  
て、神の栄光を見ることのできる力強い信仰の持  
ち主になりたいです。



聖書

ヨハネ11・17～44

テーマ

神の栄光を見る信仰

あんしゅうせい  
く暗唱聖句

もし信じるなら神の栄光を見るで  
あらうと、あなたに言ったではな  
いか。ヨハネ11・40

目標

信仰によって神の栄光を見る者とな  
る。

# 11月22日(火)

聖書

ヨハネ11・21～27

聖句

わたしはよみがえりであり、命である。  
わたしを信じる者は、たとえ死んでも生  
きる。25節

イエス様が来られたと聞いて、マルタは  
さっとお出迎えに行きました。「主よ、もし  
あなたがここにいて下さったなら、わたし  
の兄弟は死ななかつたでしょう」と言い、  
「神はあなたのどんな願いもかなえてくだ  
さると信じています」と言う、イエス様は、  
「あなたの兄弟はよみがえるであろう」と  
言われました。マルタは、終りの日のよみ  
がえりは信じていましたが、まさか今、死ん  
で四日目のラザロのよみがえりは頭になか  
ったのです。きょうのみ言葉を聞いてもね。

いのちの祈り

天のお父様、死はイエス様に対し、イエス様  
を信じるわたしたちに対し、何の力もないことを  
知り、復活の主をほめたたえます。

# 11月21日(月)

聖書

ヨハネ11・11～20

聖句

わたしたちの友ラザロが眠っている。わ  
たしは彼を起しに行く。11節

「え？ イエス様、ラザロは眠っているの  
ですか？ それなら、助かるでしょう」と言う  
弟子たちに、イエス様はハッキリ言われまし  
た、「ラザロは死んだのだ」(14)。死んだラ  
ザロの姉たち、マルタとマリヤとを慰めよう  
として、大ぜいのユダヤ人たちがきていたの  
です。普通は、残されて悲しみにくれている  
人たちを慰めに人々は行くのですね。ところ  
がイエス様は、死んだラザロを起こしに行く  
と言われます。イエス様はラザロに会いに行  
かれるのです。

いのちの祈り

天のお父様、人の考えとイエス様の考えとの  
何と大きなギャップでしょう。さすがに神の子キ  
リストです。

11月24日(木)

聖書

ヨハネ11・33～38

聖句

イエスは涙を流された。

35節

あなたも「もらい泣き」したことがありますか？目の前にいる子があまりに悲しくて、ワアワア泣いているのを見ると、ついこちらまで涙がこぼれてきてしまうというものです。マリヤは泣いていました。まわりのユダヤ人たちも泣いていました。イエス様もついもらい泣きしちゃったのかしら？いいえ、イエス様の流された涙には、もっと深い意味がこめられていました。「なんと彼を愛しておられたことか」と言われましたが、イエス様の涙は全人類への愛でした。

いのちの祈り  
天のお父様、罪と死にしばりつけられているわたしたち一人ひとりのために、イエス様が涙を流してくださり感動です。

11月23日(水)

聖書

ヨハネ11・28～32

聖句

主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。 32節

マリヤもマルタが言ったのと全く同じ言葉でイエス様に言いました。わたしたちも時々、「ああ、イエス様が今ここにいてくださったら、助かるのに、もしかしたら病気がなおるのに」と考えることがあるかもしれませんね。でもイエス様がおられない間に、ラザロは死んでしまいました。わたしたち人間の目には、もうおしまい、絶望と見えます。でも、イエス様にはとても大きな目的があったのでした。信じる者に神様の栄光を見させるということでした！

いのちの祈り  
天のお父様、どんなに絶望的と思える時も、イエス様を信じていって、あなたの栄光を見る者としてください。

11月26日(土)

聖書

ヨハネ11・43～44

聖句

こう言いながら、大声で、「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。 43節

「そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためです。」(42)と言われて、ひびき渡る雷のような大声で、「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれたのでした！死んだラザロに声をかけて、命じられたのでした！すると、どうでしょう！死人、つまり死んでもう四日目になっていたラザロが、手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきたのでした！イエス様の言葉の力！何という神の栄光！

いのちの祈り  
天のお父様、あなたの言葉に信じる者に、あなたが見せてくださる栄光のスゴサを思い、本気で信じます！

11月25日(金)

聖書

ヨハネ11・39～42

聖句

父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します。 41節

「あの盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようには、できなかったのか」とも言われて、イエス様は激しく感動して、洞穴のお墓に近づきました。「石を取りのけなさい」、「主よ、もう臭くなっています」とのマルタの返事に、「もし信じるなら神の栄光を見るであらうと、あなたに言ったではないか」とのお言葉。人々は石を取りのけました。ドキ、ドキ。イエス様は深い信頼と確信をもって、父なる神様に祈られました。ならいたいですね。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様はあなたにどんな願いを祈られても聞いてくださると固く信じておられました。模範です。



# 11月27日(日)

聖書

イザヤ9・1～7

聖句

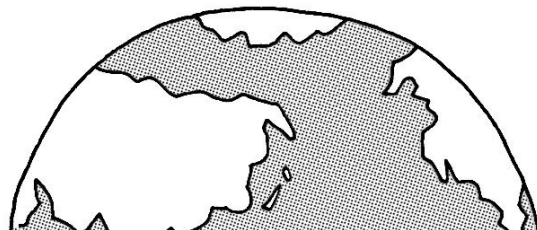
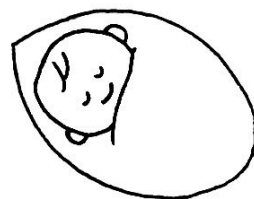
ひとりのみどりごがわれわれのために  
うま 生れた、ひとりの男の子がわれわれに  
あた 与えられた。 6節

きょうから今年のアドベント（待降節）  
に入ります。救い主イエス様の誕生を祝う  
クリスマスに向けて心を備える時です。今  
年のクリスマスはズバリ日曜日！何だかた  
くさんの祝福が待っているようで、わくわ  
くしてきます。救い主イエス様の誕生は、  
なんと七百年も前に、イザヤという大預言  
者が預言していました。オドロキです。ね。  
しかも、「生れた」、「与えられた」って、  
もうすでにお生れになったかのように記し  
ています。その通りになりました。

いの

祈り 天のお父様、あなたの預言のお言葉は必ずそ  
の通りになります。救い主イエス様をお与えくだ  
さり感謝します。

I アドベント・収穫感謝



聖書

イザヤ9・1～7

テーマ

預言されたメシヤ誕生

暗唱聖句

ひとりのみどりごがわれわれのため  
にうま 生れた、ひとりの男の子がわ  
れわれにあた 与えられた。イザヤ9・6  
私たちがのために生まれた救い主キ  
リストを信じる。

目標

# 11月29日(火)

聖書

イザヤ9・6

聖句

まつりごとはその肩にあり、その名は、「霊  
妙なる議士、大能の神、とこしえの父、  
平和の君」ととなえられる。 6節

救い主イエス様がどのようなお方かも、  
イザヤは示され、預言しました。イエス様  
をますます知って、ますます信じていきま  
しょう。「まつりごとはその肩にあり」とい  
うのは、世界の歴史を支配する力がイエス  
様にあることです。また、わたしたち、小  
さなひとりひとりの一生を導かれる力もイ  
エス様にあるということです。わたしたち  
は誰一人、自分で決めて生れてきたのでは  
ありません。イエス様の愛のご計画の中に  
生れ、導かれていくのです。

いの

祈り 天のお父様、小さなわたしのためにも、救い  
主がまちがいなく一つ一つのことを導いてくださ  
ることをうれしく思います。

# 11月28日(月)

聖書

イザヤ9・1～2

聖句

暗やみの中に歩んでいた民は大いなる  
光を見た。暗黒の地に住んでいた人々  
の上に光が照った。 2節

ユダヤの人たちは、神様が約束してくだ  
さっていたメシヤ（救い主）を、今か今か  
と待ち望んでいました。世の中はますます  
恐ろしく暗くなっていきました。そのような  
暗やみの中に歩んでいた民が「大いなる光」  
を見たのです。暗黒の地に住んでい  
た人々の上に「光」が照ったのです。救い  
主イエス・キリスト様はまさに、暗やみに  
輝く「大いなる光」です。暗黒の地に住む  
人々の上に照った「光」なるお方です。明  
るく清く暖かい世の中となります。

いの

祈り 天のお父様、イエス様もご自分のことを「わ  
たしは世の光である」（ヨハネ8・12）と言われた  
のを思い出します。

# 12月1日(木)

聖書

イザヤ9・6

聖句

その名は、「**霊妙なる**議士、**大能の**神、**とこしえの**父、**平和の**君」ととなえられる。 6節

救い主イエス様は、「みどり」(赤ちゃん!)であり、「男の子」として生れてくだされたのですが、そのイエス様は、実は、「大能の神」ですよ、イザヤは言います。大能とは、大きな能力です。大きな力の持ち主です。イエス様は、父なる神様とともに、天と地とすべてのものの、そして、わたしたちを造られたのです。しかも天地のすべてをその大きな力で今も支えつづけておられるのですから! そんなイエス様は、とても心強いと思いませんか!?

いのちの祈り  
天のお父様、ほんとうにイエス様がどんなに大きな強いお方か、よくわかりました。ドーンと頼りにして信じます。

# 11月30日(水)

聖書

イザヤ9・6

聖句

その名は、「**霊妙なる**議士、**大能の**神、**とこしえの**父、**平和の**君」ととなえられる。 6節

きょうから四日間は同じ聖句です。完ぺきに暗唱できそうですね。イエス様がどのようなお方か、一つ一つ味わいましょう。「**霊妙なる**議士」ちよっとむずかしく聞こえますが、英語では「ワンダフル カウンセラー」です。不思議(ワンダー)がいっぱい(フル)になると、まさに「ワンダフル」||「素晴らしい」となります。カウンセラーは助け教えてくれる人ですね。イエス様は、本当に素晴らしい助言者なのです。何でもお祈りしていくといいです。

いのちの祈り  
天のお父様、目に見える人に相談しやすいですが、最高に素晴らしいイエス様にいつでもお祈りしていきます。

# 12月3日(土)

聖書

イザヤ9・6

聖句

その名は、「**霊妙なる**議士、**大能の**神、**とこしえの**父、**平和の**君」ととなえられる。 6節

「**平和の**君」とはまた、「**平和の**王」です。世界のあちこちで、今も争いや戦いがあり、多くの人が傷つき、倒れ、痛んでいます。わたしのまわりはどうでしょう? 学校で、お家で、平和ですか? その前に、あなたの心の中! いつも平和ですか? 平安ですか? 本当の平和は、わたしたちがまず、神様と仲直りして与えられる心の平和からやってきます。神様との平和、それは、十字架で身代わりに死んでくださった救い主イエス様によってだけ与えられます。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様をわたしの心の王としてお迎えし、あなたとの平和、人々との平和が与えられますように。

# 12月2日(金)

聖書

イザヤ9・6

聖句

その名は、「**霊妙なる**議士、**大能の**神、**とこしえの**父、**平和の**君」ととなえられる。 6節

あなたのお父さんはどんな人かな? 元気いっぱい? ちよっと体が弱い? とても頼りになる? 忙しくていて、あまり会えない!? いつもそばにいてほしいなと思っても、また、いつまでも一緒にいてほしいなと思っても、いつかはちがう所に住んだり、天国に行ってしまったらというのが人間の父ですね。でも、イエス様は、わたしたちの「とこしえの父」です。いつも変わらない、いつまでも、そして永遠までも共にいてくださる父です。とてもうれしいですね。

いのちの祈り  
天のお父様、イエス様もとこしえの父として、いつも、いつまでも共にいてくださることを心より感謝します。

# 12月4日(日)

せいしよ  
聖書

ルカ 1・8～22、57～66

せいこく  
聖句

おそ  
恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈が  
聞きいれられたのだ。 13節

神のみ子、救い主イエス様の誕生の時には、  
いろんな不思議なことが起こりました。きよう  
の所もその一つです。イエス様のために道を備  
えたバプテスマのヨハネの両親、特に父ザカリ  
ヤに起こったことです。彼が主の聖所にはいつ  
香をたく務めをしていると、突然(ー)主の御使  
が現れて、「あなたの祈が聞きいれられたのだ。  
あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろ」と  
と言います。「え? こんな老人たちに!」疑  
うザカリヤは物が言えなくなりました!

いの  
祈り  
てん  
天のお父様、祈りが聞きいれられたという御使  
の言葉を信じるべきでした。ちゃんと祈りが聞か  
れたら信じられますように。

Ⅱ アドベント



せいしよ  
聖書

ルカ 1・8～22、57～66

テーマ

いの  
祈りの答え

あんしよせいこく  
暗唱聖句

おそ  
恐れるな、ザカリヤよ、あなたの  
祈が聞きいれられたのだ。

ルカ 1・13

もく  
目  
ひよう  
標

いの  
祈りが聞かれたとき、素直に受け  
止める信仰を持つ。

# 12月6日(火)

せいしよ  
聖書

ルカ 1・8～20

せいこく  
聖句

とき  
時が来れば成就するわたしの言葉を信  
じなかったから、あなたは口がきけな  
くなり、この事の起る日まで、ものが  
言えなくなる。 20節

主の聖所にはいつて香をたく務めは  
一人の人の一生に一度あるかないか  
らいのことでした。その時、主の御使  
がザカリヤに現れて、「あなたの祈が聞  
きいれられたのだ」と言われ、「エリサ  
ベツが産む男の子をヨハネと名づけな  
さい」と言われるではありませんか!  
お祈りしていたのに、祈りが聞かれた  
のに、「どうしてそんな事が」と信じら  
れなかったザカリヤでした。とうとう  
十カ月間何も話せなくなりました!

いの  
祈り  
てん  
天のお父様、いきなり、あなたが祈りを聞  
いてくださる時、しっかりと感謝して受け止めら  
れますように。

# 12月5日(月)

せいしよ  
聖書

ルカ 1・5～7

せいこく  
聖句

エリサベツは不妊の女であったため、彼  
らには子がなく、そしてふたりともすで  
に年老いていた。 7節

神様にお仕えしていた祭司ザカリヤと奥  
さんのエリサベツのことです。ふたりとも  
神様を第一におそれ、きっちり神様の戒  
めに従っていた立派な人たちでした。ただ  
一つ、気になっていたのは子どもがないと  
いうことだったのです。ユダヤでは妻が子  
を産まないということは恥ずかしいことと  
されてきました。きつとふたりは真面目に  
必死でお祈りしたことでしょう。ところが  
ふたりともどんだん年を取り、老年になっ  
ていました。もう無理なのではないですか?

いの  
祈り  
てん  
天のお父様、お祈りしてもお祈りしても全然  
何も起こらないことがあります。それでもお祈り  
していきます。

# 12月8日(木)

聖書

ルカ 1・57～61

聖句

いいえ、ヨハネという名にしないで  
はいません。 60節

「ホギヤ、ホギヤ!!」とうとうエリサベツが出産の日を迎え、彼女は御使がザカリヤに告げたとおりに、男の子を産みました! 近所の人々や親戚の人々は、神様が大きなあわれみをかけてくださったことを知り、共にもに大いに喜びました。八日目に、その子に割礼という儀式を行いました。人々は、父ザカリヤの名と同じ「ザカリヤ」という名にしようとしたら、母エリサベツは御使がザカリヤに告げたように「ヨハネ」にしますと言いました。

いのちの祈り 天のお父様、ザカリヤはちゃんと大切なことをエリサベツに伝え、ふたりとも守っていったことがよくわかります。

# 12月7日(水)

聖書

ルカ 1・21～25

聖句

主は、今わたしを心にかけてくださって、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました。 25節

「ザカリヤさん、なかなか出て来ないね。やっと出て来たと思ったら、今度は物が言えませんか!」きつとまぼろしでも見たにちがいないよ」と言う人々に、ザカリヤは手で合図するだけで一言も話せません。務めの期間も終り、ふたりで家に帰りました。しばらくして、奥さんのエリサベツはみごもりました! 五カ月の間静かに引きこもっていましたが、「主が今わたしを心にかけてくださいました」と、心から恥を取り除いてくださった主をほめたええました。

いのちの祈り 天のお父様、あなたは本当に真実にお祈りにこたえてくださるお方です。信じぬいて祈り、感謝できますように。

# 12月10日(土)

聖書

ルカ 1・67～80

聖句

幼な子よ、あなたは、いと高き者の預言者と呼ばれるであろう。 76節

あなたももしかして、何日かのどが痛かったりして、物が言えなかったことがありますか? 普通に物が言えるようになるとうれしかったでしょう? ザカリヤは何しろ十カ月だったのですから、口が開かれて、大いに神様を賛美し、預言して言いました。「父ザカリヤは聖霊に満たされ、預言して言った」(67)とある通りです。神様から与えられた男の子、その名はヨハネと名付けられて、「あなたはいと高き者の預言者と呼ばれるであろう」と預言しました。

いのちの祈り 天のお父様、ザカリヤの底抜けの喜びと魂の感動が伝わってきます。どこまでも神様の言われるように生きたいです。

# 12月9日(金)

聖書

ルカ 1・62～66

聖句

「その名はヨハネ」と書いたので、みんなの者は不思議に思った。 63節

母エリサベツが「ヨハネにしないではいけません」と言うと、人々は、「あなたの親族の中には、そういう名のついた者は、ひとりもいません」と彼女に言い、「じゃ、父親に聞こう」ということで、合図でたずねました。彼は書板を持ってこさせて、それに、「その名はヨハネ」と書いたのです。みんなはまたまた不思議に思いました。すると次の瞬間、ザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたえたのです! 不思議つつきでした。

いのちの祈り 天のお父様、今でもあなたのみ言葉のとおりに従って進む者のために、不思議をなしてください感謝します。

# 12月11日(日)

せいしよ  
聖書

ルカ 1・26～38

せいこく  
聖句

わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。 38節

クリスマスがどんどん近づいてきてワクワクですね。子どものクリスマス会はいつですか？たくさんのお友だちが本当のクリスマスをお祝いできますように！クリスマスは、「この人」がおられたので実現しました。「この人」とは？そう「マリヤ」です！高校生くらい年代だったようですよ。若いけれど素晴らしい、純粋な信仰の人でした。ある日突然、御使ガブリエルがやってきて、「救い主の母に」と告げます。「お言葉どおり」と答えたのです。

いの  
祈り

てん とうさま こんしゅう じゆんすい しんこう  
天のお父様、今週、このマリヤの純粋な信仰と従順を学んで、わたしもマリヤにならって祝福の道を進みたいです。

Ⅲ アドベント



せいしよ  
聖書

ルカ 1・26～38

てーま

お言葉どおり

あんしやうせいこく  
暗唱聖句

わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。

ルカ 1・38

もく  
目標

かみさま けいかく したが じゆうじゆん い  
神様のご計画に従って従順に生きる者となる。

# 12月13日(火)

せいしよ  
聖書

ルカ 1・29

せいこく  
聖句

この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。 29節

あなたは人の言うことをしっかりと聞ける子どもですか？全然聞こうとしない子、聞き流してしまう子、右の耳から入って左の耳にぬけてしまう子といるいろいろでしょう。耳から聞いてちゃんと心にもえる子どもになってください。マリヤはともよい耳と共に、よい心の持ち主でした。突然の御使ガブリエルの言葉（人間じゃなくーに、とても胸がドキドキして、「いったいなんのあいさつ？」と心の中で、思いめぐらしていたのです。よい心ですね。

いの  
祈り

てん とうさま おも 思いめぐらすというのがマリヤのよい特徴でした。わたしもその思いめぐらすのをやってみます。

# 12月12日(月)

せいしよ  
聖書

ルカ 1・26～28

せいこく  
聖句

恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます。 28節

ユダヤの都エルサレムから遠く北にあるガリラヤ、そこは「異邦人のガリラヤ」（イザヤ9・1）などと呼ばれ下される地方のナザレという田舎町に住むマリヤのもとに、神からつかわされた御使ガブリエルがやってきました。神様のみわざは、ひっそりと静かに、でも確実になされるのです。そのあいさつの言葉は、「恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます」というものでした。マリヤはいつも、深く主とお交わりをしていた人なのです。

いの  
祈り

てん とうさま いなか よ なか まった し  
天のお父様、そんな田舎の世の中に全く知られていない人に、神様の選びの「白羽の矢」が立ったことは驚きです。

# 12月15日(木)

聖書

ルカ 1・34～37

聖句

神には、なんでもできないことはあり  
ません。 37節

「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。そう、マリヤはヨセフのいいなずけ（婚約者）だったので、「子を産む」と言われても、「そんな事はあり得ないでしょう」と答えたのです。するとまた驚くような御使の返事です。「聖霊によってみごもるのです。だから、生れてくる子どもは聖なる者で、神の子となえられます。あのエリサベツでさえ子を宿して六カ月です。神にはなんでもできないことはありません」と！

いのちの祈り

天のお父様、あなたのご計画は、本当に人間の常識を超えた、スゴイものであることを、改めて覚えさせられます。

# 12月14日(水)

聖書

ルカ 1・30～33

聖句

見よ、あなたはみごもって男の子を生むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。 31節

静かに思いめぐらしているマリヤに御使は言いました。「恐がることはありません。マリヤ、あなたは神から恵みをいただいています。あなたは男の子を産みますから、その子の名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き者の子となえられます。主なる神は彼に父ダビデの王座を与え、彼はとこしえにヤコブの家を支配し、それは限りなく続きます」と。マリヤは、まだ心をドキドキさせながら、でもしっかりと聞き取ったのです。

いのちの祈り

天のお父様、マリヤが、人間の言葉でなく、御使ガブリエルの言葉を、しっかりと聞いたことを不思議に思います。

# 12月17日(土)

聖書

ルカ 1・39～45

聖句

主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう。 45節

マリヤは大急ぎで山里のユダの町へとんで行きました。ザカリヤの家です。信仰の友エリサベツにあいさつに行ったのです。あなたも教会に一緒に行くお友だち、神様やイエス様のことをお話できるお友だちがいますか？マリヤがエリサベツにあいさつすると、エリサベツのお腹の中の子どもが喜び、おどったのですって！エリサベツは聖霊に満たされて、主の母となったマリヤを祝福しました。本当に「神様の言われたことはきつとその通りになる」と信じた、さいわいな婦人たちでした。

いのちの祈り

天のお父様、今もみ言葉をもってわたしに語ってください感謝します。その通りになるといつも信じていきます。

# 12月16日(金)

聖書

ルカ 1・38

聖句

わたしは主のはしめです。お言葉どおりこの身に成りますように。 38節

御使の言葉をじっと聞きマリヤの心の中はどうだったでしょうね？「ああわたしって、待ち望んでいた救い主のお母さんになるんだわ。でもヨセフはとても悩み苦しむかしら。周囲の人々も、『何？』って白い眼で見えるかしら。いえ、それより姦淫の女だって、殺されるかも…」短い時にあれこれ思ったことでしょう。でも、「一番大切で、お従いしていくべきなのは、『神様のお言葉』。わたしは神様の奴隷女です。おっしゃるとおりにこの身にしてください」と答えたのです。

いのちの祈り

天のお父様、マリヤの命がけの従順と、献身があって、めでたくクリスマスとなったことに大きく感動します。

# 12月18日(日)

せいしよ  
聖書

ルカ 2・1～7

せいしよ  
聖句

客間には彼らのいる余地がなかったからである。 7 節

あなたが「オギヤア！」と生れた所はどこでしたか？もちろん自分で覚えている人なんて誰もいないでしょう。お母さんから聞いて、「あの病院のベッドよ」ってわかるわけですよ。さてさて、神のひとり子、救い主イエス様がお生れになった所はどこだったでしょう。「神様の大切なひとり子だから、どこかすくなくきれいな所にお生れかな？」と考えますか？そこは家畜たちがごはんを食べる飼葉おけの中でしたよ。「エーッ！なぜ？」と思ってしまいますね。

いの  
祈り

天のお父様、イエス様がお生れになった場所についても、きっとあなたの深いご計画があったにちがいないと思います。

IV アドベント



せいしよ  
聖書

ルカ 2・1～7

テーマ

キリスト誕生の場所

あんしよせいしよ  
暗唱聖句

客間には彼らのいる余地がなかったからである。 ルカ 2・7

もく  
目 標

心を開き、キリストを心と生涯にお迎えする。

# 12月20日(火)

せいしよ  
聖書

ミカ 5・1～4

せいしよ  
聖句

しかしベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちからわたしのために出る。 2 節

「ズバリ！イエス様がお生れになる場所はベツレヘムです！」と預言したのがミカという預言者でした。ミカは「イザヤと同じころ預言したので、イエス様がお生れになる七〇〇年も前に、その預言をしました。ユダの氏族のうちで小さい者を神様はお選びになりました。その中から、イスラエルを治める者、つまり救い主が誕生するということです。『イエス様の両親はナザレなのに、なぜベツレヘムなの？』と思いますね。

いの  
祈り

天のお父様、預言者は本当にスゴイ人たちです。何百年も先のことを、間違いなく言い当ててしまうのですから。

# 12月19日(月)

せいしよ  
聖書

イザヤ 9・1～2

せいしよ  
聖句

後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。 1 節

あなたのお父さんやお母さんの生れ故郷はどこでしょう？今あなたが住んでいる所ではないとしたら、お休みに出かけたかできる楽しみな所なのかな？ガリラヤ、こはイエス様の父ヨセフと母マリヤたちが住み、暮らしていた所でした。ガリラヤのナザレという所です。ガリラヤは異邦の偶像を拜むフェニキヤと隣同士だったので「異邦人のガリラヤ」などと見下げられました。でもそこで主の両親が暮らし、やがてイエス様も生活し、活躍された所でした。

いの  
祈り

天のお父様、あなたが選ばれた、イエス様の両親のいた地を思います。人には見下されても神は光栄を与えられます。

# 12月22日(木)

聖書

ルカ 2・4～5

聖句

ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。 4 節

なるほど、ここでわかりましたね。なぜイエス様がベツレヘムでお生れになられたのか！ヨセフは、ダビデ王様の家系でした。そしてまたその血統だったのです。人口調査のためには、人々はそれぞれ登録をするために、自分の町へ帰って行きました。そこで、住んでいたガリラヤのナザレを出発し、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行きました。いいなづけの妻マリヤも一緒に登録をするため行きました。

いの

祈り 天のお父様、あなたのなさることはなんて見事なんでしょうか。あなたによる預言は絶対はズレることがありません。

# 12月21日(水)

聖書

ルカ 2・1～3

聖句

そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た。1 節

歴史の勉強、好きですか？歴史を英語で言うとはストリー（ESTORY）と言うのです。それはまた、ヒズ・ストリー（HIS STORY）だと言います。「彼の歴史」、つまりイエス様の歴史だ！イエス様は歴史の中の人、また、歴史を支配しておられる神様なのです。全世界の人口調査をするようにとの命令がローマ皇帝アウグストから出されました。皇帝の命令には、みんな従わなければなりません。さあ大変。登録のために人々は動き出しました。

いの

祈り 天のお父様、小さいわたしの一生の歴史も、国の大きな歴史も、みなあなたがみ手の中に治めていることを知りました。

# 12月24日(土)

聖書

ルカ 2・7

聖句

客問には彼らのいる余地がなかったからである。 7 節

今週のみ言葉です。神のみ子、救い主イエス様をお迎えし、お宿しできるちゃんとした客問がありませんでした。実は、わたしたちの心は、あの飼葉おけのようではないですか？飼葉おけは小さくて、固くて、冷たくて（石のものもありました）、臭くて、汚れていて…。イエス様はそんなわたしたちの心にも喜んでお宿りくださり、清くして、栄光で輝かせてください。わたしたちは罪をおわびし、心の客問に救い主を心からお迎えいたしましょう！

いの

祈り 天のお父様、きょうわたしの心のまん中にイエス様をお迎えして、本当のクリスマスをお祝いしたいです。

# 12月23日(金)

聖書

ルカ 2・6～7

聖句

彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。 6、7 節

それにしても、ベツレヘムはベツレヘムでも、家畜小屋の飼葉おけの中に神のひとり子、救い主イエス様が、布にくるまれて、寝かせられたのです！ベツレヘムにはその時、あまりに大勢の人々が登録のためにやってきていたみたいですね。長い旅で疲れたヨセフとマリヤ。そのマリヤはもう今にも子どもが生れるかと思うような様子だったのでしよう。やっと与えられたお宿が、牛や馬のいる家畜小屋でした！

いの

祈り 天のお父様、何という驚きでしょう。神のみ子の誕生の場所！どのような深い意味があるのか教えてください。



# 12月25日(日)

せいしよ  
聖書

ルカ 2・8～20

せいいく  
聖句

きょうダビデの町に、あなたがたのため  
に救主がお生れになった。 11節

二〇一一年のクリスマス、おめでとうござ  
います！日曜日のクリスマスって最高ですね！  
洗礼を受けるお友だちがいたら、ハレルヤ！  
おめでとう！  
イエス様のお誕生の初めてのクリスマスは  
約二千年前だけど、それからずっとイエス  
様お誕生の喜びの知らせは鳴りひびき続け  
ています。初めてのグッド・ニュース、ハッピ  
ー・ニュース、ジョイフル・ニュースは、天  
から、主の御使から伝えられました。今は、  
わたしたちが伝えていく時です！

いの  
祈り

天のお父様、約束どおり、ダビデの町ベツレ  
ヘムにお生れくださった救い主誕生の喜びの知ら  
せを感謝します。

ねんまつかんしや  
クリスマス・年末感謝



せい  
聖

しよ  
書

ルカ 2・8～20

テ

マ

喜びの知らせ

あんしよせい  
暗唱聖句

きょうダビデの町に、あなたがた  
のために救主がお生れになった。

ルカ 2・11

もく  
目

ひよう  
標

喜びの知らせであるキリスト誕生  
を共に喜ぶ。

# 12月27日(火)

せいしよ  
聖書

ルカ 2・10～11

せいいく  
聖句

恐れるな。見よ、すべての民に与えられ  
る大きな喜びを、あなたがたに伝える。 10節

主の栄光に照らされて、あまりのまがし  
さに、羊飼いたちは、「こ、これは、な  
なにこと？」と、とっても恐れしました。無  
理もありません。未だかつてなかったこと  
ですから。御使は驚くばかりの知らせを伝  
えてくれました。「すべての民に与えられ  
る大きな喜びー救い主がお生れになった」  
と！これはすべての民に与えられるもので  
す。大きな喜びの知らせです。救い主誕生  
の知らせです。羊飼いたちは目をパチパチ、  
耳を一瞬疑ったかも知れません。

いの  
祈り

天のお父様、喜びの知らせはいくつもありま  
したが、救い主誕生の知らせほど大きな喜びは全  
宇宙最大のものです。

# 12月26日(月)

せいしよ  
聖書

ルカ 2・8～9

せいいく  
聖句

さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しな  
がら羊の群れの番をしていた。 8節

《救い主誕生！》ユダヤの民が、何百年も  
待ち望んで、待ちに待っていたできごと。こ  
のスペシャル・ニュースを神様は一体誰に一  
番に伝えたいと思いますか？王様でも皇帝でも  
ありません。祭司や律法学者でもありません。  
貧しい羊飼いたちでした。律法も守れないと  
いって社会からつまはじきにされていた羊飼  
いたちでした。彼らは自分たちの仕事を忠実  
にやっていました。羊たちのために夜、野宿  
までして番をしていた人たちでした。何とい  
う特権！

いの  
祈り

天のお父様、羊飼いたちは、思いもかけない  
主の栄光の輝きに非常に恐れましたが、何という  
夜だったでしょう！

# 12月29日(木)

せいしよ  
聖書

ルカ 2・13～14

せいく  
聖句

いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。 14節

すると見る見るうちに、夜空いっばいに、いえ、もう暗い空はすっかりおおい尽くされて、数え切れないほどの天の軍勢たちが現れたではありませんか。そして、御使と一緒に、神様をさんびして言いました。「栄光、神に。平和、地に」とね！うわあ、どんなにまぶしいばかりだったことか、どんなきれいな声がひびいたことか、どんなにかきれいなメロディーとハーモニ―だったことか！羊飼いさんたちは幸せの絶頂でしたねえ。

いの  
祈り

天のお父様、この御使と天の軍勢たちのさんびこそ、あなたを心に迎えたわたしたちのさんびと祈ります。

# 12月28日(水)

せいしよ  
聖書

ルカ 2・12

せいく  
聖句

あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見よう。それが、あなたがたに与えられしるしである。 12節

このニュースは、イエス様がお生まれになってすぐに伝えられましたね。羊飼いたちはイエス様のお生れになった所から近い所にいたのでした。救い主のしるし、それは「幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてある」というしるしでした。羊飼いたちは、「へエ、何て不思議なしるしだ？」と想ったでしょうか？家畜小屋の飼葉おけの中だって、それなら貧しいおれたちも近づけるぞと思っただでしょうか。

いの  
祈り

天のお父様、羊飼いたちに知らせたこと、救い主のしるしのこと、考えれば考えるほどあなたらしいと思えます。

# 12月31日(土)

せいしよ  
聖書

詩篇 136・10～26

せいく  
聖句

紅海を二つに分けられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 13節

10節からは、イスラエルの民をエジプトの奴隸の地から、強い手と伸ばした腕をもつて導き出された神様、荒野の四十年を導かれ、ついに約束の地を与えてくださった神様がさんびされています。特にあの出エジプトの時、前は紅海、後にエジプト軍が迫っていた時、モーセに命じて、紅海を二つに分かれさせ、民を渡らせた偉大な神のみわざ！わたしたちの一年の歩みの中にもそんな奇跡があったかも。明日は日曜日の元旦！主のいつくしみをたたえて新年をスタートしよう。

いの  
祈り

天のお父様、あなたのいつくしみはとこしえに絶えることがありません。一年を感謝し、新しい年もあなたに期待します。

# 12月30日(金)

せいしよ  
聖書

詩篇 136・1～9

せいく  
聖句

ただひとり大いなるくすしきみわざをなされる者に感謝せよ。そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 4節

クリスマスの大いなる喜びに浸っていたら、あら！もう今年も今日と明日と二日しかない。この二日で、詩篇136篇をもって、神様を心より賛美し、感謝にあふれて一年を終ることにしましょう。すべての節に「そのいつくしみはとこしえに絶えることがない」とあります。ふたりで前半と後半に分けて読むと後半の人は同じ言葉ですね！ここには偉大な天地創造の神様がさんびされています。神様はほんとうにただおひとりで大いなるわざをされました！

いの  
祈り

天のお父様、この一年を振り返りあなたがなしてくださった大いなるくすしきみわざを思い、感謝にあふれます。